

様式 8

論文内容要旨

報告番号	乙先 第 [35 号]	氏名	関 陽介
学位論文題目	参考情報の発信効果を高めるための対話システムに関する研究		
内容要旨			
<p>本研究では、大学広報における進学希望者向け対話システムを対象として参考情報の発信効果を高めることを目的とする。そして、情報収集の支援的仕組みや対話持続性を向上させるためのシステムへの親近感を考慮した対話手法、さらにはユーザ評価や導入分析による継続的な改善手法を提案してそれらの有効性を明らかにする。本論文は以下のように構成される。</p> <p>第1章では、序論として対話システムの導入における研究課題や関連研究、目的や全体像を述べる。そして、本研究の意義や位置づけを明らかにする。</p> <p>第2章では対話場面を検討対象として、情報収集が困難なユーザを支援するために、個人属性を考慮して潜在的 requirement を想起する推薦型対話手法（提案手法1）を提案する。提案手法1により参考になり得る情報を推薦することで、興味がある内容の気づきや発見が促され、参考情報を収集したいユーザを支援できる。また、ユーザとシステム間の友好的な関係を形成するために、疑似的な聞き間違いによりユーモア表現を生成する対話手法（提案手法2）を提案する。提案手法2により質問がしやすい環境を構築することで、利用機会の増加や持続的な対話が期待でき、ユーザは疑問を解消できる。</p> <p>第3章では、導入後の改善調査を検討対象として、アンケート調査によりシステムを評価するために、認証フレームワークを用いたアクセスログを考慮するアンケート手法（提案手法3）を提案する。提案手法3により利用状況を考慮したアンケートを実施することで、システム管理者は目的に沿った課題を整理でき対話システムの改善に繋げられる。また、対話システムのユーザが他の情報源から収集した情報を調査する場面への適用可能性を検討するために、作業過程・成果の想起を促す作業履歴の提示手法（提案手法4）を提案する。提案手法4を対話システムのユーザに適用することで、システム管理者は閲覧されたWebページからユーザの要求を満たさない不十分な回答文を調査でき、用例の充実に役立てることができる。</p> <p>第4章では対話場面における手法、第5章では導入後の改善調査における手法に対して、比較評価や導入評価を実施して提案手法の有効性を確かめる。そして、評価実験の結果や進学希望者向け対話システムへの適用に関して議論する。</p> <p>第6章では、本研究の結論として各提案手法や評価実験の結果を整理する。</p>			